



みんなでビブリオトーク&バトル実行委員会

～大人も子どもも、自分の「好き」を
全力でぶつける！全力でつながる！それがビブリオバトル！～

第四回目は、富士宮市立図書館で活動されているみんなでビブリオトーク
&バトル実行委員会の皆さんの活動や取組について紹介します。

ビブリオバトルって何ですか？

高瀬氏 「僕はこの本が好きなんだ」「私はこの本を薦めたい」と思う本を参加者（バトル）が持ち寄り5分間で紹介し、質疑応答を行った後に投票して一番読みたい本（チャンプ本）を決定する。といった取組になります。ビブリオバトル公式ルールでは発表後のディスカッションは2～3分間となっていますが私たちは対話を引き出すために8分程度にしているのが特徴です。こどもから大人まで年齢層の違う人たちがイブニングなルールの中でトークバトルをしています。



▲会長 中澤 進さん
逢坂冬馬『同志少女よ、敵を撃て』



▲高瀬 一樹さん
広田照幸『学校はなぜ退屈でなぜ大切なのか』

対話をつくるための工夫とは？

高瀬氏 発表者は6名、それぞれの色の付箋を用意して、参加者に感想を記入してもらい画用紙に貼っていきま。質疑応答の際にわざわざ発表するまでもないちよつとした眩きも拾うことができます。

中澤氏 この本に興味を持った人が感想の周りに集まって自分はこの本に対してこう思ったけれどこんな思いもあるんだと皆でワイワイと語り合います。本の数だけ輪ができる様子をカッコいいなあと思って見えています。



▲みんなでビブリオトーク&バトル実行委員会の皆さん

望月氏 発表者にこの感想を書いた付箋をお渡ししてビブリオバトルに参加した思い出にいただいています。



高瀬氏 オンライン質問共有ツールを活用してスマホから書き込んでもらい司会進行の方から質問してもらうなど、みんなの前で質問するのがちょっと恥ずかしいと思う人でも匿名で質問できるように工夫しています。

苦労したところはありますか？

高瀬氏 大人の参加者が少ない点です。コンセプト的に参加者の年齢層はばらけさせたいのですが、小学生、中学生、高校生の参加者が多い傾向にあります。

発表する本はどんな本でもいいのですか？

高瀬氏 はい、どんな本でもいいです。私は数学の問題集で発表したことがあります。辞書でも国語辞典でも電話帳でも5分間で魅力を紹介できる本なら何でもよいです。新約聖書で発表したケースもあると聞きます。

対話のある開かれた図書館を！

中澤氏 きっかけは、図書館に市民の声を反映させるよう設置された図書館協議会で、市民の求める図書館像を「対話のある開かれた図書館」とまとめたことです。その具体的な活動の一つとしてビブリオバトルを考えました。実行委員は8名、3回の会議を経て本番を迎えます。本年度は2026年2月15日に開催を予定しています。

（文責：山藤陽子、稲葉晃司）



▲望月 有子さん
柚木麻子『BUTTER』